

月の花挽歌 ～10. ^{がつざん}月山～

10-7

真紀はあれこれの思いが去来するままに東北自動車道を走行していた。

静かな車内空間に流れるミスター・チルドレンのアルバム『ボレロ』の最後に収録されている12曲目“Tomorrow never knows (remix) ”の歌い終わりのフレーズ（心のまま僕は行くのさ誰も知る事のない明日へ）を真紀の聴覚が捉えてまもなく、オーディオTTクーペA3は鹿沼ICを通過していた。

真紀の実家は月山の麓にある人口5000人足らずの西川町で、出羽三山詣での行者宿の名残りととどめる旅館『D』を百年にわたり営んでいる。

月山で採れた山菜や川魚料理が有名で、客室は10部屋ばかりだが、それぞれに趣の異なる今昔の風情があり、行き届いたもてなしをするために20名で満室としていた。

現在の旅館『D』は、義母の朝子と異母弟の拓哉夫婦が切り盛りしている。

一人っ子の真紀が小学校5年の時に、母の登紀子は乳癌で亡くなった。

父の正雄は登紀子の三回忌が済んで、半年後に5歳年下の朝子と再婚した。

今年で24歳になる異母弟拓哉も一人っ子だったせいか、年の差はあったけれど実弟同然に接してきたし、義母の朝子は真っ直ぐな性格だったので、真紀は居心地の悪さを感じたことは少なかった。

親類も人並みにいたが、ほとんどが山形県内に在住していたので冠婚葬祭で顔を合わす程度の付き合いになっていた。

国見SAでトイレ休憩を取ったきり、真紀は走行を続けた。15時過ぎに村田JCTから山形自動車道へ入り一時間ほどハンドルを握ると、寒河江川（さがえがわ）を渡り月山湖上の西川ICに到着した。

雪化粧の月山が出迎えてくれたのは、7年ぶりの故郷だった。

旅館から少し離れた場所にある2階建ての仕舞屋風の庭先駐車場へ愛車を止めた時は、午後4時を回っていた。

アフターアイドリングをさせながら外に出た真紀は、見慣れた景色と冬の冷気を吸いながら、思いっきり背伸びをした。

旅館は16時からがチェックインタイムなので、誰も来ないと思っていたのだが、「お姉さん！」と義妹の奈美恵が声高に言いながら小走りやって来た。奈美恵とは仙台のホテルの披露宴で花嫁姿を見て以来、4年ぶりの再会だった。